

07/28 - 07/29

EXPO メッセ「WASSE」
地域の魅力発見ツアー 夏



体験型ワークショップで
射出成形の面白さを
こどもたちにアピール



自社の成形加工技術を活かし、まな板になるお皿「CHOPLATE」を展開

河辺商会という社名は、1955年の創業当時に紡績関係の商社業を営んでいた名残。その後、紡績機械に使われていた金属部品に代わるプラスチック製品を自社で設計・製造し始め、今日では自動車や家電製品など、傷一つ許されない外装が求められるプラスチック部品の成形加工を担っています。特に同社が得意とするのは、色や素材が異なる複数の素材を一体化させて成形する「多色一体成形」や、まるで塗装したかのような美しい仕上がりを実現した「無塗装成形」、商品の小型化や軽量化に貢献する「薄肉成形」で、得意先企業からも高い信頼を獲得しています。最近では、同社の技術を活かし、軽量で高硬度なSPS樹脂を使ったまな板になるお皿「CHOPLATE」シリーズを自社ブランド製品として展開、好評を得ています。



高品質なものづくりを支える技術者たち

万博カラーのアートパネルづくりのワークショップを開催

大阪・関西万博(以下、「万博」という)では、EXPO メッセ「WASSE」で開催される「大阪ウィーク～夏～」社(河辺商会、小泉製作所、シャープ化学工業、常磐精工)合同で廃材を活用したアート作品のワークショップを開催します。具体的には、来場者のこどもたちを対象に、QRコードが印字された「スクエア記念チケット」を収めるホルダーづくりを体験してもらうもので、河辺商会では、ホルダーのストラップづくりのための、再利用する樹脂にゴムを加えて柔らかくした素材や、参加者が自由に描く砂絵の色砂の代わりとなる樹脂のペレットを提供します。

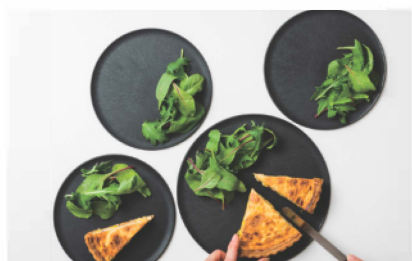


イベント会場でもワークショップを開催

2020年からスタートした堺の「FactorISM(ファクトリズム)」を牽引

今回、万博でワークショップを行う4社は、2020年から堺市の企業も参加している「FactorISM」(*)を牽引してきた企業で、同社の福田康一社長は南エリア支部長を務めています。活動を開始した5年前から、万博の開催を視野に入れ、国内外から多くの来阪者を迎えるこの機会に、堺のものづくりをアピールしたいと考えていました。同社では、工場の大型射出成形機を見学してもらうだけでなく、ワークショップ用の小さな射出成形機を用意しており、万博では溶かした樹脂が実際にプラスチック製品に成形される瞬間を体験できます。

※FactorISM(ファクトリズム)とは、堺市や八尾市など大阪府内の町工場でもものづくりの現場を体験・体感してもらうイベント。一般の方向けに工場見学やワークショップを開催し、職人が何を考え、何を感じてものづくりに励むのかを知り、そこに憧れをもつ。合言葉「こうばはまちのエンターテインメント」にはそんな思いが込められている。



ECサイトで大人気の「CHOPLATE」シリーズ

企業概要

所在地 〒593-8307
堺市西区平岡町85-1
TEL 072-260-6700
設立年 1978年(1955年創業)
資本金 5,000万円
従業員 45名

公式サイト

さかしる



国内外から訪れる多くの方に、堺の魅力を伝える機会になれば



代表取締役社長
福田康一 さん

「インナーブランディング」という言葉がまだなかった頃から、従業員たちが自分たちの強みを見直し、仕事へのやり甲斐を感じてもらうことを大切に考えていました。4年前に当社の技術力を活かした自社ブランド商品を発売したのもその一環です。「FactorISM」も、私たち自身が楽しむことを考えて開催してきました。堺のこどもたちは社会見学で注染などの伝統産業を体験しており、その時の楽しかったことを思い出してUターン転職した人もいます。体験しなければ、ものづくりの魅力は伝わりませんから、万博のワークショップもそうした機会になればと願っています。

事業内容

金型設計・製作、一般成形～2材成形、金属との複合成形、多色成形
二次加工、完成品

主な取引先(納入先)

自動車メーカー、家電メーカー

主な製品・サービス等

自動車やAV機器、光学機器、電池などの外装・内装部品、機構部品
まな板になるお皿「CHOPLATE」